

リテイクスに回帰しているのではないかと思えます。

山内 そこは定義の問題ですが、かつての冷戦の特徴は自由主義対共産主義というイデオロギー対立の構図、それからブロック化でした。一方、現在進んでいる事態は、既存の国際秩序を基本的に受け入れる米欧と、それを認めないロシア、中国そしてイランといった「拒否戦線」との対立になっています。現状維持と否定の両グループの争いが中東という「実験場」で熱戦になっています。それでも大国間は直接対峙してはいないので、かつての冷戦構造と類似していると私は考えるのです。

宮家 なるほど、現状維持勢力と「力による現状変更」を意図している国家間の対立ということですね。

宮崎 ロシアはイランとの連携を進める一方で、中東のメジャープレーヤーであるサウジアラビアへ原発を売却するなど、非常に多角的に動いていますね。

山内 ただ、ロシアとイランの間に一種の信頼関係が成立したことは事実ですが、最後まで両者が「同盟」の関係でいられるとは思えない。シリア空爆に当たっては、ロシアのカスピ海艦隊からミサイルを発射して、イラクとイランの上空を通過しました。そのうち四発はイラン領内に落ちた。北隣の大国ロシアがシリアでイランの勝手を許さないという睨みであり、シリア派拡大の野

心を牽制する意味があったはずですよ。

先日、プーチンがテヘランを訪問して最高指導者ハメネイ師と会談しました。三百年前のコーランを土産に持ち参し、モスクワにイスラム大学を作るなどの友好的な提案をしています。ところが、プーチンは水や食べ物などをすべてロシアから持参しました。それだけ毒殺を警戒しているんですね。

宮崎 暗殺教団伝説のあるイランは信用できないということですか(笑)。

山内 いや、自分たちが毒殺の文化を持っていますから(笑)。実は、一九四三年にスターリン、ルーズベルト、チャーチルがテヘランで会談した際にも、同じことがありました。スターリンの好物は、ウォッカと黒コシヨウ、それからミルクを混ぜたカクテル。材料はすべて持参した。新鮮なミルクのために、わざわざ牝牛を連れていったんですよ(笑)。プーチンを見ると、スターリンの政治文化を踏襲している印象を受けます。

「規範の帝国」EUの影響力とは

宮崎 昨年、ヨーロッパはギリシャに端を発するユーロ危機、そして後半はシリア難民問題で大きく揺れまし